漢字の草体化・省画化・増画化→各言語特有文字

2. 書誌

絹本・木簡・竹簡　巻子本，紙本・墨書

書誌学的常識と科学的分析：黄麻紙，麻紙，楮紙

3. 現史料

東洋文庫書庫見学

使用資料：

『梵語千字文』

キリシタン文献 I――キリシタン版の印刷技法――

白井　純

（信州大学准教授）

キリシタン版と金属活字印刷について基本的知識を理解し，『ひですの経』と『こんてむつすむんぢ』を例に，キリシタン版国字本活字印影データベースから新たに判明した量産型金属活字ではない資料と，日本語の規範に反する特徴をみていく。

1. はじめに：キリシタン版

・16 世紀末～ 17 世紀初（約 20 年間）に日本で出版されたキリスト教イエズス会の出版物

・キリシタン関係の文献：活字，印刷，版式，言語

・西洋のプレス式印刷技法：ローマ字・日本語文字（漢字・仮名）のパンチ式金属活字を使用

・日本語史研究における重要性：異言語の接触

2. 本日の話題（問題点）

・キリシタン版国字本活字印影データベース：キリシタン版の版式を知る唯一の方法

・量産型金属活字：父型（Punch）と母型（Matrix）

・『ひですの経』の活字印影と原田版『こんてむつすむんぢ』の版式

3. 金属活字印刷とキリシタン版

1）金属活字印刷の歴史：アジアの活字印刷，キリシタン版の印刷機，日本の活字印刷

2）インクナブラ（活字揺籃期）の時代

3）金属活字印刷の技法と課題

・パンチ式金属活字の製法とプレス式印刷機の利用

・文字の使用と日本語活字への対応

4）キリシタン版国字本の発展：活字の種類による 3 期分類

①極初期片仮名本：稚拙な試用版

②前期国字本：イエズス会版，ヨーロッパ製，変体仮名の固定化→仮名文の可読性

③後期活字本：連綿活字の利用，常用的漢字と金属活字

4. キリシタン版と『ひですの経』
・発見の経緯
・特殊なキリシタン版（木活字の活字印影が多い。定訓と固定表記の関係に反する。）
・活字デザインの相違，「第三種活字」の作成
・断簡（裏表紙の裏打ちに利用された反故紙）と本篇の相違

5. 原田版『こんてむつすむんぢ』の版式
・異なった形状の活字，乱版（活字と木版の混合装丁）
・連綿率と非連綿の例

使用資料：
キリシタン版『Flosculi ex veteris, ac novi testamenti』
『スピリツアル修行写本』
重要文化財『ドチリーナ・キリシタン』の複製本

キリシタン文献 II——キリシタン版の紙と活字——

豊島　正之
（上智大学教授）

キリシタン版の紙と活字を書誌学的に検証し，日本の書誌の特徴を把握する。また，校正におけるさまざまなエピソードについて印刷物を通して考察し，当時の印刷方法や技術について理解する。

1. はじめに：キリシタン版の種類

2. 判型：判型の格付け

3. 判式：面付け

4. 紙（繊維）：文書の種類と紙との対応
麻紙，楮紙，斐紙

5. 紙（格付け）
鳥の子，写本，キリシタン版の紙

6. 活字
仮名・漢字金属活字印刷，漢字鋳造の技術，印刷年表，Jorge de Loyala 版下（筆跡と草書体）

7. 校正
校正者，印刷者，著者

8. 翻訳
その国最初の印刷